



# 新聞・雑誌から見る現代日本

しんぶん ざっし み げん だい にほん

第33回  
だい かい

どうする？ 環境問題——温室効果ガス 25%削減  
かんきょうもんだい おんしつこうか さくげん

このコーナーでは、新聞・雑誌の記事を通して現代日本事情の紹介をするとともに、日本語を教える先生方が新聞・雑誌の記事などの生教材をどうやって教材化し、中・上級の日本語の授業にどう活用できるかを提案していきます。

## 読む前に

現在の日本社会でもっとも広く使われているキーワードの一つが「エコ」ではないでしょうか。「エコ」とは、もともとは人間と自然環境の関係などを研究するエコロジー (ecology) の略語でしたが、様々なことばと結びつくことによって、たくさんのお話を生み出しています。「環境にやさしい」と言い換えることもできるでしょう。

世界同時不況の影響による厳しい状況の日本社会では、2009年に入ってから、「エコカー減税 (http://www.honda.co.jp/green-tax/reduction/merits/merits01/)」や「エコポイント制度 (http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg2670.html)」(動画サイト) など、環境にやさしい製品を購入するときに税金の減額や購入特典をえられるようにすることで、経済を活性化しようという政策が打ち出されました。どんなことばにも「エコ」がつかうようになってくると、「エコ」ということばを、厳密には定義しにくくなるのですが、そこに未来を明るくするイメージが含まれていることは確かです。

日本国内に限らず、「エコ」の背景にある環境問題は世界的な課題です。地球温暖化による海面上昇の影響で、国がなくなってしまうのではないかとされている地域もあります。「グリーン・ニューディール」(Green New Deal) ということで、2008年後半から世界各国が地球温暖化、世界金融危機、石油資源枯渇の問題に真剣に取り組むようになってきました。

2009年8月末の日本の総選挙で民主党が圧勝し、9月に民主党を中心とする連立政権が誕生してから、鳩山首相が世界に向けて発した最初のメッセージは、「日本政府は、温室効果ガスの削減目標として、1990年比で言えば2020年までに25%削減を目指す」という非常に高い目標でした。この鳩山首相の国連演説でのメッセージは、国際的にも日本国内でも驚きをもって迎えられました。そして、これが実行可能な数字なのかという点で、様々な論議を呼んでいます。

今回取り上げる記事は、このメッセージに対して、環境問題の研究者と大手コンビニエンスストアのCEOがどのように考えているかという内容です。みなさんの国では、地球規模のレベルの環境問題についてどのように考えていますか。今回、日本から発せられたメッセージをどう受け止めればいいのか、いっしょに考えてみましょう。

## 参考ウェブサイト A

■ The Japan Times Online “Impetus for a low-carbon world” (2009年9月19日) (英語)

<http://www.japantimes.co.jp/weekly/ed/ed20090919a2.htm>

■ 毎日小学生新聞 「科学 温室効果ガス 「25%削減」表明に世界が拍手」(2009年10月3日)

<http://mainichi.jp/life/edu/maishou/mado/archive/news/2009/20091003kei00s00s003000c.html>

**質問 1:** みなさんの国では、温室効果ガスの削減について、どのような意見がありますか。あるいは、実際にどのような取り組みがなされていますか。自分の国の新聞やウェブサイトなどで調べてみましょう。

**質問 2:** 「環境にやさしい」という意味の「エコ」で始まるカタカナ語にはどのようなものがありますか。ウェブサイトなどで調べてみましょう。そして、記事(1)の見出しの「エコな街づくり」とはどのようなものなのでしょうか。また、記事(2)の文中太字のキーワード「反エコ」とはどのようなものなのでしょうか。本文を読む前に具体的な例を考えてみましょう。

# 論点



小宮山 宏

三菱総合研究所理事長。前東京大学学長。専門は化学システム工学、地球環境工学。

9月22日、鳩山首相は国連気候変動首脳級会合で2020年までに日本の温室効果ガスの排出を1990年比で25%削減すると表明した。このことがもたらす結果に危惧の念も寄せられているが、要はやり方次第なのである。私は、輝かしい日本を実現する格好の目標たりうると考えるので、そのための提案を行いたい。

25%の内訳を概算すれば、「日々のくらし」で11%、「ものづくり」で5%、原子力と風力などで4%、森林吸収源等で5%、あわせて25%と考えている。「日々のくらし」での大きな削減は、省エネ、創エネの先端機器やサービスの購入を意味し、それが「ものづ

## 温室ガス25%削減

# エコな街づくり達成の鍵

「くらし」のマーケットを育て、雇用を創出し、21世紀の世界が必要とする新産業を日本から生み出すことを可能にする。今こそ、前向き志向が必要なのである。

日本のエネルギー消費は、家庭、

の低減で回収でき、生活の質はよくなることも明らかになった。「日々のくらし」55%の中の80%削減は、日本全体で44%削減できることを意味する。2020年まで

れば、排出量購入によらず、25%削減の自力達成が可能である。「日々のくらし」で大きな削減を行えるか否かが提案実現の鍵になる。市民の理解が進み、初期投資を代行する自立債、排出量取引など、適切な仕組みを整えられれば可能なのだが、20年はすぐやってくる。社会実験を行いつつ普

オフィスの「日々のくらし」が55%、素材、自動車、家電などが45%を占める。「ものづくり」には削減余地が大きい。我が家をエコハウスにし、エコカーを導入し、東京大学総長室に2枚目の窓を設置するなどの対策で、エネルギー消費80%削減が可能であることを実証した。そ

の進行率を4分の1として、11%の削減を目指す。既にエネルギー効率の高い「ものづくり」に過度の負担を求めるのは得策でない。5%と想定する。原子力発電の稼働率を国際レベルまで高めて3%、森林保全による吸収源拡大、海外での省エネや新エネ投資などが寄与する。こうす

及を図るのが不可欠だ。日本は課題先進国であり、温暖化のみならず多くの困難を抱えている。これらを同時に解決するためのまちづくり運動を起そうではないか。その中で、25%削減も達成するのだ。日本の国土は南北に長く、気候、生活、文化は多様である。未来のまちの姿も多様だ

ろう。そこで、全国の自治体と協働でまちづくりの実験を行うのが、「プラチナシティ・ネットワーク構想」である。プラチナとは次世代のキーワードである高齢者、生態系、低炭素の三つの輝きを表しており、エコでバリアフリで快適なまちづくりを目指す。すでに、青森県、福井県、千葉県柏市などが動き始めており、多くの都市から参加したいという声が寄せられている。また、東京大学とフューチャーデザインセンターが推進役を担う。姉妹都市の締結を通じ、特にアジアと連携する。市民が協力し合える風土の力と太陽電池、燃料電池、蓄電池、ヒートポンプ、エコカー、エコ家電、断熱材といった日本が得意とするものづくりの力を結集する「プラチナシティ・ネットワーク構想」の推進が、温暖化の解決や新産業の創出で世界を先導するのだ。

▲記事(1) 読売新聞(朝刊) 11面 2009年10月16日

読売新聞社に無断で転載等著作権を侵害する一切の行為を禁止します。  
この記事・写真等は、読売新聞社の許諾を得て転載しています。



AREA10月19日号 p.83 新浪剛史のビジネス元気塾

『日本語教育通信』2009年12月「新聞・雑誌から見る現代日本」第33回に掲載している記事は、  
著作権の関係で掲載ができません。

## 読もう

質問3： 温室効果ガス25%削減について、記事(1)の筆者と記事(2)の筆者はどのような立場をとっていますか。ア～エの中から正しいものを選んでください。

- ア. 記事(1)の筆者も記事(2)の筆者も、ともに明確にしていない。  
 イ. 記事(1)の筆者も記事(2)の筆者も、ともに批判的である。  
 ウ. 記事(1)の筆者も記事(2)の筆者も、ともに賛同している。  
 エ. 記事(1)の筆者は批判的であるが、記事(2)の筆者は賛同している。

質問4： 今後、温室効果ガスを削減していく方法として、記事(1)と記事(2)のもっとも異なる点は何ですか。次の文の空欄に当てはまることばとして、最も適当なものはア～エのどれですか。

記事(1)ではA：[ ]によらない国内努力で25%削減の自力達成が可能としているが、記事(2)では国内努力だけでなく、途上国にB：[ ]を持ちこんで支援するようなC：[ ]をつくらなければ無理だとしている点。

- ア. A：環境技術 B：文明 C：ライフスタイル  
 イ. A：具体策 B：ライフスタイル C：しくみ  
 ウ. A：省エネ B：具体策 C：ライフスタイル  
 エ. A：排出量購入 B：環境技術 C：しくみ

質問5： 記事(1)の筆者が提唱している「プラチナシティ・ネットワーク構想」では、どのような街づくりを目指していますか。

質問6： 記事(2)で、温室効果ガス25%削減という目標の問題点はどこにあると筆者は考えていますか。

質問7： 記事(2)の「地球環境型経済」というのはどのようなものですか。

## 〈解答例〉

質問3： ウ 質問4： エ 質問5： エコでバリアフリーで快適な街づくり

質問6： どんな根拠で25%という数字を出したのかがあいまいで、大幅削減のための具体策や意義を政府が説明していない点

質問7： 社会のため、地球のためになる企業に収益がついてきて、エコ活動と経済が手を取り合って発展していくもの



## 読んだ後で

**質問 8:** みなさんは、「温室効果ガス 25%削減」という目標を世界に向けて発表した日本についてどう思いますか。(鳩山首相の演説全文について知りたい人は、参考ウェブサイト B を見ましょう。) まず、自分の意見とその理由を書き出したあと発表し、その後でみんなで話し合ってみましょう。

**質問 9:** 今回取り上げた 2 つの記事では、温室効果ガス削減と経済発展をともに実現する方法を提案していますが、みなさん自身はこの点についてどう思いますか。自分の国の状況を考えて話し合ってみましょう。また、みなさんの「日々の暮らし」では、温室効果ガス削減のためにどのようなことができますか。記事を参考にして考えてみましょう。

### 参考ウェブサイト B

■首相官邸ホームページ「国連気候変動首脳会合における鳩山総理大臣演説」(2009 年 9 月 22 日)

[http://www.kantei.go.jp/jp/hatoyama/statement/200909/ehat\\_0922.html](http://www.kantei.go.jp/jp/hatoyama/statement/200909/ehat_0922.html) (日本語)

[http://www.kantei.go.jp/foreign/hatoyama/statement/200909/ehat\\_0922\\_e.html](http://www.kantei.go.jp/foreign/hatoyama/statement/200909/ehat_0922_e.html) (英語)

■新産業創造「プラチナシティ」(2009 年 10 月 1 日)

<http://platinum.mri.co.jp/node/118>

■青森県県土整備部都市計画課「青い森セントラルパーク 低炭素型モデルタウン構想への期待」パワーポイント (ppt) 資料 (2009 年 9 月 29 日)

<http://www.pref.ajinomori.lg.jp/soshiki/kendo/toshikei/files/2009-1008-2207.pdf>

■毎日 jp 「時代を駆ける：新浪剛史 /6 止 「ローソイズム」造りたい」(2009 年 9 月 16 日)

<http://mainichi.jp/select/opinion/kakeru/news/20090916ddm004070175000c.html>

### 【解説】

今回は、地球規模の問題である温室効果ガス削減に関する論説文と Q&A 風の記事を選び、実際の教室活動の流れも意識して質問と記事を提示しました。

「読む前に」で記事本文の内容を理解できるように、テーマに対する問題意識を喚起し、キーワードについて考えることができるような練習を取り入れてみました。また、今回も背景知識として役立つような参考ウェブサイトを紹介しました。なお、本文中のキーワードのリンク先として動画サイトも利用できるようにしました。

「読もう」では、論説文と Q&A 風というスタイルの異なる 2 つの文章を比較しながら筆者の立場を問う問題、筆者の主張を理解する問題などを練習に含めました。

「読んだ後で」では、この記事に対する意見を述べる練習、環境問題についてより深く考えることを促す質問も含めました。参考ウェブサイト B はさらに詳しく調べたい人のためのものです。図やグラフが豊富なパワーポイント資料 (pdf 版) にもリンクしています。

このコーナーの担当：林敏夫・浜田盛男／関西国際センター日本語教育専門員

今回取り上げたテーマや練習案についてのご意見をお待ちしています。また、今回の記事を使って授業をしたときの様子や結果などをお寄せください。